



・ 2016・9・21

第 250 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

交流会成功で九条の会運動の新たな前進を

分散会の討議の柱など検討

戦争法施行後初めて開かれる九条の会第6回全国交流・討論集会への期待は高く、全国から多くの参加申し込みがありました。

九条の会では9月20日に第3回実行委員会をひらき、分散会の論議を、①いまなぜ、安倍改憲？改憲のねらいと改憲をめぐる情勢、②戦争法反対・廃止の運動の経験交流—改憲を阻む力を探る、③改憲を阻むための九条の会の課題、を中心に行うことを申し合わせました。同時に事務局からは、今後の取り組みを強めるため、この日を期してよびかけ人をささえて九条の会のあり方等について協議する世話人会（仮称）を発足させることが報告されました。

つぎつぎと新九条の会が誕生

【宮城県北部地域】 宮城県栗原市に9月11日、「栗原九条の会」が結成されました。栗原文化会館で開かれた設立総会には70人が参加、「二度と『戦争をしない』ことを定めた憲法9条をあらためて学び、守り、生かし、広げ」ることを訴えるアピールを採択しました。

県北部では、今年4月に大崎市で開いた

演説会を契機に、次々と地域や分野の九条の会が結成されています。栗原九条の会は、「田尻」「とめ青年」「加美」「涌谷」「登米」「栗原・文字」に続き7つ目です。

設立総会では、栗原市議会の佐藤悟副議長らのあいさつの後、代表世話人に門伝仁氏など役員を選出し、宣伝や署名、学習に取り組むなどの基本方針を確認。元鹿島台町長の鹿野文永氏が講演しました。

鹿野氏は、改憲勢力が3分の2の議席を取っているが、次の選挙で打破できる短命勢力だと強調。「ママの会」や「シールズ」が声をあげたことが政治を動かしたと指摘し、「市民は、積極的に政党に『やりたいことがある』と突き付けていくことが大切だ」と訴えました。

1人の戦死者も青森から出すな

【青森県／青森県九条の会】 青森県九条の会は9月14日昼、青森市新町商店街で戦争法の廃止を求める街頭宣伝に取り組み「『駆け付け警護』による陸上自衛隊・青森部隊の南スーダン派遣反対」を訴えました。

宣伝には、19人が参加。戦争法廃止を訴えるチラシとティッシュを配布し、市民へ

共同を呼びかけました。

マイクを握った参加者は、内戦が続き他国の部隊や国連職員が死傷する危険な南スーダンの状況を知らせ、「自衛隊の駆け付け警護は憲法違反。紛争地で武装勢力と銃火を交えることなど、専守防衛に徹してきた自衛隊として絶対にあってはならない」と抗議。「戦後初の戦死者を青森からださせない声を上げましょう」と呼びかけました。

【青森県／9条を守る青森県茶屋町の会】 茶屋町の会は9日、11年間毎月9日に続けている街頭宣伝を行いました。

堤西9条の会の人も参加し、雨ふりの中、8人で横断幕や旗を掲げました。

門倉昇会長は「南スーダンは大規模な紛争が相次いでおり内戦状態の国なので、軍事専門家も戦死者が続出するといっています。非常に危険です。こんな任務を与える安保法制を廃止させましょう」とマイクで訴えました。

道行く人々が声援を送ってくれ、町会長さんも「ご苦労さん」とあいさつしていききました。

戦争廃止へ手をゆるめず

【岐阜県各務原市／九条の会・各務原】 各務原市の市役所前で9日昼、「戦争法廃止スタンディングアクション」が行われ20人が参加しました。

参加者は「アベ政治を許さない」「子どもや孫を戦場に送る憲法改悪に反対」のボードを掲げ、道行く車にアピールしました。

九条の会・各務原の三戸光則さん（73）は「戦争法強行からまもなく1年。南スーダンの自衛隊駆け付け警護や、テロ対策を

口実に強行を狙う共謀罪は、われわれのスタンディング活動が取り締まる対象にもなる。戦争できる国への地ならしを絶対に許してはならない。われわれの手で戦争への流れを必ず食い止めよう」と訴えました。

初めて参加した僧侶の男性（54）は「安倍政権の独裁政治に慣れてしまうことは非常に危険。衆院選でも市民と野党の共闘を強めるべきだ。今後の活動に協力したい」と語りました。

交差点では、クラクションを鳴らす車や車内から思いきり手を振る人など、30分間に多くの人が応えました。

事務局の岩井稔さん（79）は「19日の戦争法強行1年の行動は、最大規模の100人以上をめざします」と語っています。

【愛媛県大洲市／憲法9条をまもる大洲の会】 大洲の会は10日、市内で憲法アピール行動をし、「私たちは戦争法廃止まで声を上げ続けます」と訴えました。

菊池弘代表世話人は「憲法は権力を持った人たちが暴走しないよう歯止めをかけるものだが、これがじゃまで仕方ない人たちが憲法を変えたがる」と述べ、憲法改悪阻止、戦争法廃止へ力を合わせようと呼びかけました。

沖縄県の60代の女性は「私も、うるま市具志川九条の会の会員です。子や孫に平和な日本を残すために安倍首相の暴走を止めなくてはなりません」と激励しました。

【愛媛県／愛媛9条の会】 愛媛9条の会は9日、松山市の大街道商店街で宣伝しました。13人が参加し、森英二事務局長らがリレートーク、「自衛隊が米軍と一緒にあって、日本が攻撃されていないのに世界中

のどこでも戦争できるようにする安保法制の廃止を」と訴えました。

戦争法廃止を求める署名をした19歳の男子大学生は「安倍首相は、口先では『平和のために』と言っていますが、戦争へ戦争へと日本を持っていこうとしている。『安倍首相は頭がおかしいのではないか』と言いたい。戦争は絶対にしてはならないと思っています」と言います。

9月9日9時…いっせいに

【福岡県／九条の会県連絡会】 平和を祈り憲法9条を守ろうと9月9日9時9分に、寺院や教会で9回鐘を鳴らす「平和の鐘」行動が、県内各地でいっせいに行われました。九条の会県連絡会の呼びかけで2007年から毎年行われ、今年は約100カ所の寺院・教会が参加しました。

福岡市東区の明覚寺では和白地域9条の会の会員6人が鐘をつきました。

初めて鐘をついたという小池アヤ子さん(68)は「2人の孫を戦場に送りたくない」と2回鐘をつきました。繁華街で自衛官募集がされるなど、身近なところに戦争が近づく怖さを感じる。平和の鐘がどこでも鳴らされるようになり、孫たちの世代まで続いて行ってほしい」と話しました。

【札幌市／西区・琴似・山の手九条の会】

9月9日午前9時9分に、憲法の改悪を許さず、9条を守ろうと、札幌市西区の琴似と山の手九条の会、戦争させない札幌西区民の会の20人が、同区でスタンディング宣伝しました。

小雨の中、「子どもたちに平和を」「憲法違反の戦争法NO」を訴えて、約1キロを

行進しました。胸や手には「平和憲法を守ろう」をはじめ、「戦争させない」「独裁政治やめろ」などのカードを掲げました。

ハンドマイクで「戦争を二度としないと世界に誓った憲法はどんなことがあっても守り抜きましょう」「米国と一緒に海外に出かけ殺し殺されることになる戦争法は廃止させましょう」と市民にアピールしました。

【富山県／高岡地区九条の会等】 富山県内の9条の会は9日、憲法9条を守ろうと呼びかける行動に取り組みました。

高岡市の三つの9条の会が参加する「高岡地区9条の会」は、同市の二上山の鐘つき堂に集まり、午前9時9分から平和の鐘つきをしました。

飛び入りで参加した4入の観光客を含む27人の参加者は、「憲法9条を変えるな」「戦争法廃止を」など、平和への思いを声に出して、鐘をつきました。

沖縄県那覇市出身の広村美枝子さん(65)は「9条に対する思いは強く、こういう活動があることは心強い。平和を願う沖縄の人たちと一つになって、安心できる平和な日本になってほしい」と話していました。

「9条の会」県連絡会も午前9時9分、平和への願いを込めて富山市の「大法寺」で鐘をつきました。

憲法カフェで自民政改憲案を学習

【東京都大田区／憲法9条 大田女性の会】 9月13日、「憲法9条 大田女性の会」が憲法カフェ開きました。テキストは自民党憲法草案について“草案をつくった人々の気持ちによりそって”解説してある『あたらしい憲法草案のはなし』(太郎次郎

社エディタス)。30代から70代までの7人が集まりました。

同会は2012年に自民党が憲法草案を発表してから10回ほど学習会を重ねています。

一番盛り上がったのは、両性の平等を定めた第24条。自民党案では「家族は、社会の自然かつ基礎的な単位として尊重される。家族は、互いに助け合わなければならない」という条文が加わります。テキストの解説文は、「親が反対する相手と結婚していいのか、国民はよく考えなくてはならない」「みんなが家族に尽くせば、保育や介護は家族の責任になります」と説明します。

2人の子どもを育てる30代の女性は「結婚は親に相談するものだし、家族のきずなを大事にするのは当然だと思って、ここはあまり問題に感じていなかった。でも自民党案の狙いは、もっと広い枠組みまで設定していると分かって（怖さで）ビクツとした」といいます。

金子兜太さんの戦争体験を聞く

【埼玉県川口市／かわぐち九条の会】

かわぐち九条の会は11日、川口市で第11回平和と文化の集いを開き、約300人が参加しました。「マリンバ・プロムナーズ」によるマリンバとピアノの演奏に続き、俳人の金子兜太さんが「戦争生き残りは反戦の魂」と題して講演しました。

金子さんは、海軍主計中尉として配属されたトラック島で食料確保に奔走しつつも、サツマイモの栽培失敗やアメリカ軍の機銃掃射による妨害などで飢餓に陥り、200人の部下のうち70人を餓死や攻撃などで失った経験を話しました。

文化が抑圧され、俳人も弾圧された戦前と、現在のさいたま市の公民館で憲法9条を詠んだ俳句が掲載拒否される事件を対比。さいたま市の事件では作者の女性が抗議の声をあげたことを「戦前とは違う。女性が強くなっている」と話しました。

参加した川口市の女性（72）は「戦争の生の体験を聞いてよかった。国会では、安倍首相が暴走政治を早めています、ひどい政治が行われていることを多くの人が知らずにいます。知らせる運動をもっと続けたい」と話しました。

戦争法廃止の政府つくるための行動を 【北海道旭川市／あさひかわ9条の会】

旭川市で11日、あさひかわ9条の会が結成11周年、東地区9条の会、西地域9条の会がともに結成10周年を迎えたのを記念し、九条の会事務局長の小森陽一氏を迎え講演会を開催、市民450人が参加しました。

講演会では、東地区9条の会の氏家正実共同代表は、結成からの各9条の会の活動を紹介し、「改憲につきすすむ安倍暴走政治に対し、旭川でも市民の行動が広がっている。子や孫を戦場に送らないため一緒に行動していこう」と呼びかけました。

小森氏は「参院選後の憲法をめぐる情勢—安保法制廃止へ空前の共同を」と題して講演。安保法制に反対する学者の会やシールズ、ママの会など市民連合の活動を紹介し、「参院選後に安倍首相が明文改憲を公言し、いまが最も緊迫した情勢になっている」と述べ、「戦争法廃止、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回する政府をつくるまで統一した運動をすすめよう」と話しました。